



※発行所※
 横浜市 中区 港町 1-1
 電話 (045) 543-7190 番
 横浜市 庁舎 内
 港 記者 室
 電話 (045) 671-3325
 主 筆 三 村 貞 夫

中田ファミリー（中田 宏・陳 正堂・塩原和夫・小山正武・小幡正雄）は刎頸の友。中山大輔議員の「指入れ合コン」恫喝事件に端を發し、中田市長は週刊現代を名誉毀損事件として東京地裁に提訴。中田を庇う（諸刃の剣・『雉子も鳴かずば打たれまい』）証言が横浜市の伏魔殿解明のカギを解く。小幡正雄元副議長『横浜から日本を変える会』という地域政党に属していました。中田市長とともに市財政緊縮させて何兆もある市の赤字を解消しようとすることを目指す政党です。赤字解消を目的とした『変える会』の塩原和夫会長自ら、市の公金を詐取して赤字を増やす。川口港湾局長が小山正武に不正な貸付（市長の自由裁量）で損害を与えた。陳・小幡の陳述で明白となった。中田ファミリー（刎頸関係）の全貌が垣間見えてきた。（敬称略）

陳 述 書（原文全文）

私、陳正堂は、平成19年3月7日の中山大輔市会議員と中田市長との面会の席に同席しておりましたので、週刊現代の事実無根な報道に対して、陳述します。

1、平成5年、私は知人の紹介で当時衆議院議員に当選したばかりの中田市長と知り合いました。以後、年齢も1つ違いと言うこともあり、非常に親しく付き合うようになり、以前より両親や子供も含めた家族付き合いをしています。もちろん、中田市長の選挙ボランティアをしたこともあり、横浜市に当選後は、ボランティアで後援会活動の手伝いもしていました。

2、私が中山市議と初めて会ったのは、平成15年の横浜市議員選挙の前年の暮れでした。横浜中央病院（横浜市 中区 山下町に所在）の看護士であった若井さんから紹介されたのがきっかけです。

中山市議は当時、横浜中央病院の職員でしたが、平成15年の横浜市議員選挙に立候補するので応援をしてあげてほしいと頼まれました。私は全く中山市議に関する情報もないまま紹介をされたので、席上、私は中山市議の志を確認するために「何故、市議員に立候補をする決意をなされたのか」、「民意代表として何を達成

したいのか」という質問をしましたが、中山市議は、私の予想に反し、本当は出たくない、坂田病院長から出ると言われており悩んでいる「等の返事でした。そこで私は志がないのであれば、議員になるべきではない」と伝え、応援をお断りしました。しかし、その選挙の数日前のことですが、横浜中央病院の坂田病院長から「中山もやる気になってくれるから、応援をしてあげてくれ」と頼まれました。そこで私は坂田病院長とともに中山市議の選挙事務所に向いました。そうしたところ、中山市議は「市政の為に一生懸命頑張りたい」との言葉がありました。些細な一言ではありますが、私としては志を確認したので、ボランティアで応援することとし、選挙区内の中田後援会の有力者数名を中山市議に紹介しました。そして、多くの支持者の力で中山市議は初当選しました。

2、当選2、3ヶ月したある日、私は中山市議や他の1年生市議との宴席（桜木町のバー）に呼ばれました。その席で、中山市議は私の肩を叩きながら、わざと他に聞こえるように「今度また市長と一緒に若井さんたち看護士と合コンしようよ。仲間同士じゃないですか」と言われました。中山市長は勿論のこと、私は中山市議と合コンに行つたことなど一度もありません。中山市議は、自分が中田市長に近い人物であることを他の若い市議にアピールしたい為なのか判りませんが、全くあり得ないことを言いだしました。こうした虚偽の言動等から、私は中山市議は政治家には相応しくない人物である

と考え、以後、接触しない様にしていきました。また、その後、一年くらい後に、選挙時に私が中山市議に紹介した選挙区内の中田後援会の有力者であります小山正武さんから、中山市議は真面目に市政活動をしていないのではないかとのクレームを受けましたので、困惑して単身小山正武さんの会社で謝罪に行つたことも覚えています。

4、その後、中山市議の後援会会長でありました医師の塩原和夫先生からか、小幡市議からか記憶がはつきりしませんが、3月7日に中山市議が中田市長に会うので同席してほしいと言われましたので、同席しました。場所は、横浜市中区不老町のビルディング内の一室です。多忙な中の中田市長が来られました。つまりその席には、中田市長・小幡市議・中山市議・塩原後援会長がいました。

席上、まず塩原後援会長が「来る選挙においても中山市議を応援してほしい」と口火を切りました。中山市議はあまり話しませんでした。塩原後援会長、小幡市議、中山市議とも、噂に関する一切は一切触れずにいましたので、私は一切触れずにいましたので、私が中山市議に噂の真偽を訊ねました。もしも本当であるならば、議員にあるまじき言動でないかと問いました。いわゆる合コン云々では、以前に「今度また市長と一緒に若井さんたち看護士と合コンしようよ。仲間同士じゃないですか」と言った事実（前例）もありましたので、その様なありませんし、真実と誤認されてしまいかねない言い方をするのは慎むべきではないかと問い質しました。

労組の支援欲しさに、ありもしない事を言うのは良くないし、何よりも内容が低次元な上、名前を使われた中田市長にとつては、迷惑な話だと思つたからです。しかし、中山市議は反省している様子すら見せていませんでした。一方、中田市長は中山市議に対して「改革をやる気があるのか」、「本当に私とともに横浜市のために頑張るつもりなのか」などと意思の確認をしていました。その場の中山市議は「今後とも中田市長と共に横浜の改革の為にまじめに頑張ります」と無表情に返事をしていましたが、私には口先だけの返事のように思えました。

私は中山市議・塩原後援会長・小幡副議長に対し、中山市議の次の選挙は、中田市長の応援に頼るのではなく、過去4年間の自身の実績を市民に問うて戦うべきではないのかと提案しました。しかし、中山市議・塩原後援会長・小幡副議長は3人共が、中田市長の応援なくして当選はできないと言い、市長の改革の後押しをする覚悟なので、何とか応援をしてほしいと再三懇願していました。

そうしたところ、塩原後援会長が、今後横浜市民のために市政を真面目にやる意思を表示すべく中山市議に「誓約書」を書いたらどうかと提案がありました。実際にはその場での誓約書の作成はありませんでしたし、ましてや脅かして「詫び状を書かせた」等という話は事実無根です。

5、後日、小幡市議より再度、横浜市中区不老町のビルディング内の一室に呼ばれました。そこには中山市議と中山市議です。

小幡市議が内ポケットから“小幡副議長”と書かれた茶封筒を私に示し、「中山から誓約書を預かったから、応援を宜しく頼む」と言われきました。私が「どの様な誓約書なのか、見せてくれませんか」と小幡市議に訊ねましたが、文面は見せて貰えませんでした。席上、私は小幡市議から、中田市長に中山市議を応援する様に口添えを頼まれましたが、噂の真偽が不明瞭のままだったので、私は明言を避けました。その後、私は自らの仕事があつたので退席をさせて貰いましたが、その日の夕刻に中山市議から何度か連絡があり、すぐに会ってほしいとの事でしたので、私の実家の中華料理店で会うこととしました。中山市議は“小幡副議長”と書かれた茶封筒を私に差し出し、内容を確かめてほしいと言いました。その内容は、宣誓書、と題されていて、誠実に市政に取り組む旨の内容が書かれていました。また、中山市議から再三にわたり中田市長への応援の口添えを頼まれました。余りにも懇願をするので、私はもう1度中山市議を信用しようと思いました。そこで私は中山市議に、私からも中田事務所にも連絡を入れて応援依頼をしておくので、中山市議本人からも中田事務所の上垣秘書に連絡を入れ、中田市長の顔写真等の使用承諾を得るようにとアドバイスしました。実質的に中山市議は選挙で中田市長の応援を得る事ができた訳です。

その後、中山市議の書いた宣誓書は、私が預るべき性質のものでありませので、選挙終了直後に塩原後援会長の事務所へ届けました。重ねて申し上げますが、その宣誓書の内容は、誠実に市政に取り組む旨の内容で、決して存在する筈もないハレンチ合コンを口外しない云々という、低次元な内容が書かれていませんでした。6、そうした経緯を経て、中山市議は平成19年の市議選も再当選しました。しかし、当選するや中山市議は、噂どおり中田市長の行革反対する会派に移って行きまして。前述の噂は本当だった訳です。中田市長に応援を頼みながら、労働組合と関わり深い会派に入つたのです。もちろん、小幡市議や塩原後援会長も裏切られる結果となりました。

7、ところが、週刊現代には中山市議が、中田市長と看護学校生との合コンで、破廉恥な行為をされた女子学生から相談受け、中田市長にその事について注意したところ、中田市長が中山市議に対して「黙っている」と脅迫し、詫言を書かせたと報道しましたが、前述のとおり、これは全くの事実無根です。また、私は週刊現代の記者と中山市議のいる席上に、呼び出されて幾許かの報酬で、虚偽の証言をするように要求されたり、いわゆるハレンチ合コンと称されるものとは全く関係のない会合の写真(週刊現代に掲載されたもの)の提供を要求された看護士が存在することも知っています。全く関係のない会合と、中山市議との面会、宣誓書を書いた事柄などを勝手に結びつけ、何でもない会合を、意図的にハレンチ合コンに仕立て上げたことは明白です。

今回の週刊現代と中山大輔市議らの行動は、読者に真実を伝える責務のあるマスコミの無責任な報道と、有権者を無視し、自らの地位保身を優先する心無い市議員が起こした許し難い事件だと思えます。彼らの無責任な行動が市政の停滞をもたらし、どれだけの損失を横浜市民に与えたのか計り知れません。一市民、一有権者として心が痛みます。

陳述書(原文全文)

中田市長に関する「週刊現代」の記事に記載されました市議会議員を胴喝した件について、私の記憶している事実を陳述します。

1、私は、平成19年4月の横浜市会議員選挙のあと、4月29日まで2期目の当選をした中山大輔君の後援会会長を約4年間やっております。塩原和夫と申します。

2、平成14年の中田市長誕生のあと、横浜市政改革を推し進めるため、中田市長の改革に賛同する市議会議員を増やしたいという市議会議員の意向を受け、当時社会保険中央病院職員であつた中山大輔君を説得し同意を得て、平成15年の横浜市会議員選挙に立候補・当選でありました。私は、中山君が当選後、後援会長になり、中山君を全力で支えて参りました。

3、しかるに2期目選挙の数ヶ月前より、どうも彼の行動に不審な点があり、後援会の方々からクレームも沢山出て参りました。また同僚議員からも、団会議に欠席し不謹慎だとの声も出て参りましたので、彼が本当に2期目を中田市長とともに改革を進めていくかと心配になり、当時副議長職の小幡正雄氏に相談し、一度市長と直接面談し本人の意思確認をして

いただくことを決めました。

4、面談当日、市長から「やる気があるのか」「本当に私とともに頑張るつもりなのか」と強い口調で言われたことは記憶しておりますが、話の内容は来る市議選に中田とともに歩む覚悟はあるか、さもなければ今のうちに決別して、あなたも中田シンプアの顔をして当選後逃げるなら私は応援しないという、本人の意志確認でありました。その時、私にも市長にも「今後とも改革を真に頑張ります」との返事でした。市長はその話を聞いたのち、次のスケジュールのため、退席しました。

5、その時の態度からみて口先だけの様子とも受け取れる感じが強く、そこで私は今後、市民のために市政を真面目にやる意志表示をするために「誓約書」を書くように提案いたしました。そして中山議員は誓約書を書くと言ひ、その日はそれで終わりました。

6、その後中山議員は誓約書を書いたようですが私は見ていません。しかしその時約束した誓約書は本人が市民のため中田市長とともに真面目に活動するということ“決意表明”が内容の筈です。

7、しかし、残念なことに本人が当選後、何の相談もなく立候補時に所属していた会派を離れましたので、私は責任をとって同日付で後援会長を辞しました。かように中田市長の改革をもにすると約束し市長の支持を得るための虚言を吐いたことになるかと思ひます。これはとても残念なことと思ひます。

8、私が立ち会った中田市長と中山大輔君の会談は脅しでも何でもなく「本人のやる気」の確認だけでありました。週刊現代に書かれているような中山君が市長に「ワイセツ合コン」を注意した結果、中田市長が胴喝したというものではありません。中田市長の言葉を全く意味のないあらぬ方向へ導くことは許し難く、真意を述べさせていただきました。

陳述書(原文抜粋)

私は、横浜市会議員を昭和54年4月からさせていただいております小幡正雄と申します。

さて、週刊現代の記事に記載されていることについて以下の通り、陳述したいと思います。

1、中山大輔市会議員が中田市長の女学生と合コンを行ったことを知っていて、中田市長がそのことを誰にも言わないように中山議員を脅かし、且つ「誰にも言ひませぬ」ということを約束する覚書・誓約書を中山議員に書かせたという週刊現代に書かれていることは、全くの事実無根です。

2、中山議員は、平成15年4月から「横浜から日本を変える会」という地域政党に属していました。中田市長とともに市財政緊縮させて何兆もある市の赤字を解消しようとすることを目指す政党です。

主筆の解説

中山議員が「変える会」を離脱したのは不正行為を察知し、告発する為であった。理由は読者が記事を読めば納得するであろう。中田ファミリーの内情が暴露され、市長を庇う陳述が「諸刃の剣」となり「天網恢恢」お粗末の一席。